

令和4(2022)年2月

東京都



「未来の東京」戦略 version up 2022

政策をバージョンアップする6つの切り口

①安全安心

都民の命と生活を守る基盤「危機管理」

■新たな調節池整備
に着手



■東京 i CDCの機能を一層強化し
感染症に強い都市へ



■島しょ地域など
無電柱化を加速

■東京の危機克服・都市強靱化
10か年プロジェクト

■DX等を活用し、自然災害への備えを強化

②共生社会

バリアフリー「段差のない社会」

■あらゆる施策の多様性と包摂性を高め

共生社会を実現



■都内全域で
「段差のない社会」を創出



■若者・ひとり親家庭など、
困難を抱える方へのサポート

■無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）解消など、女性の活躍を加速

■デジタル等を活用した高齢者のQOL向上を一層推進

■成長分野への就業支援、長期失業者への集中的なフォローアップ



③グリーン& デジタル

自然と共生した持続可能な都市

■「2030年カーボンハーフ」に向け、建築物の
ゼロエミ化、自動車の脱炭素化等を強力に推進

■ウォーカブルな「人中心」
のまちづくりを推進

■「スマート東京」先行実施エリアの
取組強化・横展開



■緑を「守る」「増やす」取組を多面的に展開

■外濠浄化の推進により「水の都」を実現



④グローバル

世界から選ばれる金融・経済・文化都市

■世界最先端を実現する
東京ベイeSGプロジェクトを推進

■東京が誇る「観光」を再興し、
「食」の魅力を高める多様な

振興策を展開



世界発信



■国際金融都市に向けた歩みを進める

■文化・エンターテインメントがあふれ

■多様で柔軟な働き方の実現

「楽しさ」を生み続ける都市へと進化

⑤チルドレン ファースト

子供の目線からの政策展開

■子供政策を総合的に
推進する体制を構築

■官民一体となった
「こどもスマイルムーブメント」
を戦略的に展開

■子供の参加・対話を通じて
政策の質を向上

■DXや社会の力を一層活用し、
新たな「東京型教育モデル」を強化

■誰一人取り残さない視点から
子供へのサポートを強化



⑥都政の構造改革

シン・トセイの加速



シン・トセイ 2

■5つのスタンスで改革を更に実践

- ユーザーとの対話を徹底する
- QOSを徹底して数値化し、デジタルで爆上げする
- 働く環境を変えることで、人を、仕事を、組織を変える
- 制度や仕組みなどの構造的な課題に切り込む
- 変革をスピードアップし、サービスをいち早く実現する

■コア・プロジェクトを加速しデジタルガバメント・都庁の基盤を構築

■各局リーディング・プロジェクトを拡充し、都政のQOSを飛躍的に向上

TOKYO FORWARD

大会で活用された最先端テクノロジーを都市に実装し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」を実現する

「スマート東京」の実現に向け、新たなサービスの実装や基盤整備を加速

◆「スマート東京」先行実施エリアの取組強化

- 先行実施エリアにおけるスマートサービスの充実

西新宿 5G 自動運転 スタートアップ ・大学と連携した5G活用サービスの創出等	都心部 リアルタイムデータ 都市OS ・都市OSを活用した分野横断的なサービス実装等
南大沢 ローカル5G モビリティ ・地域課題を踏まえた、モビリティサービスの創出等	ハイエリア テクノロジーの実装 スタートアップ集積 ・自動運転や空飛ぶクルマの実現に向けた取組の推進等
島しょ地域 島しょ地域の社会課題解決 ・島民や観光客向けのデリバリーサービスの導入等	

➢ スタートアップの機動力を活かし、新たなスマートサービスを多数実装

◆デジタルツインの実現に向けた基盤整備を加速

- デジタルツインの基礎となる3D地形データを都内全域で整備
- 防災分野での先行的活用
- 東京データプラットフォームの本格運用に向けた取組を推進

◆「つながる東京」の早期実現

- 多様な主体と連携したアセット開放
- 都内通信環境の調査及び通信困難地域の解消

あらゆる分野にテクノロジーの活用を推進

◆新しい観光の浸透

- ドローンを活用した観光振興
ドローンを操作してリアルな観光をリモートで誰もが楽しめるコンテンツを創出するなど、アクセシブル・ツーリズムを充実
- バーチャルスポーツを活用した観光PR
都内の観光地をバーチャル空間に再現して紹介し、東京の魅力を発信

◆芸術文化を楽しむ環境整備

- 江戸東京博物館でバーチャル・ミュージアムを展開し、新たな鑑賞モデルを発信

※ アプリイメージ

◆スポーツの新たな楽しみ方を拡大

- バーチャル空間において自転車等で走り楽しめる機会を創出
- 分身ロボットを活用し、重度障害者が遠隔でスポーツに参加する機会を提供
- 民間の最先端技術を活用した新たなスポーツ体験機会を提供
- 大会の周年イベント等にDXを導入し、リアルとバーチャルのハイブリッドで楽しめる環境を創出
- 都立スポーツ施設にリモート観戦が可能な映像配信システムを導入

産業基盤を担う中小企業の持続的発展を後押し

◆DXへの投資等による産業のスマート化

- デジタルツール導入支援
デジタルツールの導入を支援し中小企業の事業活動のDXに向けた取組を促進
- デジタルを活用した受注拡大
ビジネスチャンス・ナビに、商談から契約までオンラインで完結する機能を整備
- DX人材育成支援
企業の課題を踏まえた従業員のリスクリング計画の策定から、DX講習まで一体的な支援を実施

戦略8
安全・安心 ver.up

- 豪雨災害に備え、対策強化地区における浸水対策や、流域下水道雨水幹線の整備など、さらなる下水道整備を推進
- 「東京港海岸保全施設整備計画」を改定し、将来的な気候変動に対応した海岸保全施設の整備を実施
- 大規模水害時を想定した避難対策として、国や区市町村等と連携し、高台まちづくりや道路高架部等の活用、分散避難等の取組を引き続き推進

下水道施設整備のさらなる推進

対策強化地区における施設整備
これまでの対策を着実に推進するとともに、広範な床上浸水等が想定される地区について1時間75ミリ降雨に対応する下水道施設を整備するなど、対策を強化



千川増強幹線（文京区千石、豊島区南大塚）

空堀川上流域南部地域の下水道雨水幹線の整備

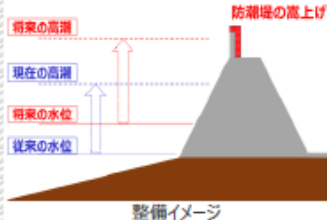
浸水被害軽減に向け、市と連携した雨水対策として3市（立川市・東大和市・武蔵村山市）をまたぐ流域下水道雨水幹線の整備を推進



気候変動を踏まえた高潮・津波対策

「東京港海岸保全施設整備計画」に基づく整備
防潮堤、内部護岸や排水機場等の整備を着実に推進し、高潮・津波への対策を一層強化

- ▼今後予想される海面水位上昇等に備え、防潮堤の高上げを実施
- ▼排水機場の機能維持に向け、老朽化・耐震対策を実施



芝浦排水機場

【国事業】荒川洪水調節池群（第二・第三調節池）の整備

洪水調節容量5,100万m³の第二・第三調節池を2030年までに整備完了予定。2022年度以降の調節池の本格整備に向け、2021年11月から工事用道路整備等に着手



（資料）「なるほど！荒川第二・第三調節池」（国土交通省）を基に作成

大規模水害時における避難対策の推進

大規模水害時の避難対策

国と設置した「首都圏における大規模水害広域避難検討会」の議論等を踏まえ、複数の避難行動を組み合わせた分散避難を更に推進

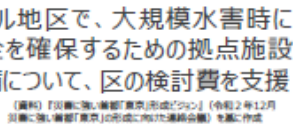
- ・適切な避難行動を促進するため、情報発信手段や普及啓発を充実、強化
- ・検討会において作成するガイドライン等に基づき、区市町村の広域避難計画の策定を支援
- ・都立施設や国・民間施設を活用した広域避難先の更なる確保



高台まちづくりの推進

「高台まちづくり推進方策検討ワーキンググループ」を国と都で設置

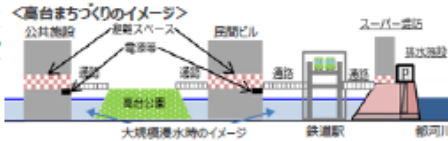
- ・モデル地区で、大規模水害時に安全を確保するための拠点施設整備について、区の検討費を支援



（資料）『災害に強い首都圏「高台まちづくり」』（令和2年12月）を基に作成

- ・大規模水害時に人命を最優先とするレベル5*「緊急安全確保」での緊急避難先等のひとつとして、道路高架部等の活用を検討・調整

*災害がすでに発生している可能性が高くなり、早急な安全確保が必要な状況



デジタルツインを活用した水害シミュレーション

「東京都デジタルツイン」の3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレート



訓練等で活用し行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく



（出典）「Project PLATEAU」（国土交通省）

3か年のアクションプラン（主要）

具体的な取組（主要）	2021年度末（見込み）	年次計画		
		2022年度	2023年度	2024年度
防潮堤の整備	—	計画策定	実施	実施
水害時の避難対策の検討	「首都圏における大規模水害広域避難検討会」における広域避難に関するとりまとめ	国や区市町村等と連携した分散避難の推進（情報発信のあり方・広域避難体制の構築など）		